

2024年12月期 通期決算説明会 質疑応答の要約

2025年2月12日に開催した決算説明会において、参加者の皆様から頂いたご質問をまとめたものです。GMO インターネット 代表取締役 社長執行役員の伊藤より回答させて頂きました。なお、一部 IR 部門にてご質問および回答を付記・補足させて頂いております。

【業績関連】

【Q1】 2024年12月期の、GMO インターネットグループ（証券コード：9449）からの承継部門の営業利益はどの程度でしょうか。また、セグメント別の増益要因や、ドメイン・レンタルサーバー事業、インターネット接続事業の伸び率のイメージなどがございましたらご教示頂けますでしょうか。

【A1】 承継部門の営業利益については、承継部門分、として監査を受けていない数字ですので、営業利益については資料において出しておりませんが、概ね YoY15%成長としてイメージして頂ければよろしいかと思えます。監査を経た正しい数値については、2025年第1四半期の決算でお話ししたいと思います。

増益要因としては、一番期待値が高いのは GMO GPU クラウドですが、新規事業ですので、具体的にどういったタイミングで売上・利益が上がっていくか、という点については確実にご説明できる状態ではありません。ただお客様の反応は良好ですので、増益に寄与するのではないかと考えています。また、既存のインターネットインフラ事業については、岩盤ストック収益のモデルが出来上がっていますので、着々と売上・利益が上がっていくものと考えております。

インターネット広告・メディア事業については、立て直しや新たなチャレンジの準備が昨年までに整っておりますので、プラスに寄与できるのではないかと考えています。

今後の伸びに関しては、インターネット接続事業については、基本的にインターネット回線は日本全国に引かれており、今後どんどん伸びていく、という状況ではないと考えています。ただ一方で、商品の入れ替えが激しく、ダイヤルアップから光回線、10ギガの光回線、といった形で商品が入れ替わっていきますので、この中で競争力を持ったサービスを提供することでシェアを獲得して成長できる、と考えています。

ドメイン・レンタルサーバー事業については、こちらも市場としては広がらないように見えるかと思いますが、ドメイン・サーバーを必要としている事業者様の総数は変わらないものの、内訳となる会社は、新たな起業や、引退などにより変わっていきます。また、この先新しく起業される方はドメインを取ってインターネットを使われるかたが多くいらっしゃると思いますので、市場としては伸びていくのではないかと考えています。

【GMO GPU クラウド関連】

- 【Q2】 GMO GPU クラウドについて、800 基が 100%稼働となりそう、というお話でしたが、追加の投資は検討されていますでしょうか。また、追加となる場合、NVIDIA 社からのチップ供給において優先されるなど、アドバンテージはあるのでしょうか。
- 【A2】 (伊藤) 追加の投資は検討しております。市場は伸びていきますので、必要に応じて追加投資をしていく方針です。ただし、チップの性能など変化の激しい業界ですので、市場やお客様の様子を見ながら、適宜投資を検討していきたいと思っています。
供給の優先度については、そういった契約があるわけではありませんが、関係性としては近しい関係を築かせて頂いていると認識しておりますので、状況に応じご相談はさせて頂けるのではないかと考えております。
- 【Q3】 (GMO GPU クラウドへの) 追加投資をされる方針ということですが、経産省の補助金の残りはどうなっているのでしょうか？また、補助金がなくても追加投資をされる方針でしょうか？
また、補助金がない状態で追加投資を行った場合、原価が上がってくるものと思いますが、その場合でもマージンは一定程度確保できると考えてよいのでしょうか？
- 【A3】 (伊藤) 頂いている補助金は前回の 100 億円規模の投資の際に頂いているものですので、現状ではこれ以上のものはございません。補助金が出ない場合でも、お客様の需要に応じた追加投資は行いたいと考えております。お客様とお会いするなかでニーズの高まりを感じておりますし、今後も必要性は増えていくものと考えております。もちろん補助金を出して頂けるのであればありがたいですが、なくとも追加投資はしていきたいと考えています。
マージンについては確保できるものと考えておまして、価格対性能の非常に高い商品ができていくものと考えておりますので、今後、競争環境が強まって来るものと思いますが、この価格帯・性能で戦っていけると認識しています。
- 【Q4】 DeepSeek の登場による技術革新が起きましたが、GPU クラウドの需要の見通しについてどのようにお考えでしょうか。
- 【A4】 (伊藤) DeepSeek につきまして、素晴らしい技術革新が起きていると思っておりますし、日々 AI を触る中で毎月のように新しいサービスが進化していくところを目の当たりにしています。ただ、先程の調査結果（註：2024 年 12 月期 通期決算説明資料 P19-20 に記載の、生成 AI 市場の見通し）にもありましたように、生成 AI もしくは AI 産業の発展はまだ始まったばかりで、インターネットの時代もそうでしたが、紆余曲折がありながら大きなトレンドとしては進化が続いていき、データ量がどんどん増えていく、ということが起きました。AI についても同じようなことがこれから 10 年・20 年単位で起きていくと考えており、企業や個人の皆様の AI 活用がこれからどんどん進んでいくと考えていますので、DeepSeek の登場により GPU クラウドの需要に変化はないと考えてお

ります。

【業績予想】

【Q5】 業績予想の営業利益 80 億円については、どの程度保守的に予想されているものでしょうか？ リスク要因は何か考えられますか？

【A5】
(伊藤) 現時点では、硬め・強めなく、ど真ん中の予想を出しているつもりでおります。リスクファクターがあるかと言いますと、ビジネスモデルとしては、岩盤ストック収益がございまして、大幅な減少はなく、ベースとしての利益は確保できていると考えています。ただ一方で、インターネット広告・メディア事業については、市場環境も変わってきており、事業改善をしていく必要があると考えておりますので、新しいツールやコンサルティングのサービスを検討しています。ここは伸びしろ・リスクの双方あると思いますが、全体の金額と比べるとそこまで大きな額ではありませんので、影響はさほど大きくないと考えています。

【仲間づくり(M&A)関連】

【Q6】 M&Aの方針において、「グループ内の組織再編」というお話がありましたが、そういった観点から、グループ内の他の会社についてはどのように見ていらっしゃいますか？

【A6】
(伊藤) 既存事業についてはシェアを増やしたいと考えていますので、双方にメリット・意向があることを前提としてですが、グループ内で一緒にやれる需要があれば、検討の余地はあると考えています。ストック型の商品を持っていて顧客基盤のシナジーがあるなど、そういった背景があれば十分考えていけるのではないかと考えています。

以上